

「生誕 120 年記念 須田剋太展 私は造型になりたい！」

2026 年 10 月 16 日(金)– 11 月 14 日(土)

エネルギーで生命力あふれる人物画や静物画、そして抽象絵画で知られる画家・須田剋太（すだ こと）の生誕 120 年記念展を開催いたします。

須田剋太は 1906（明治 39）年、埼玉県北足立郡吹上町（現・鴻巣市）に生まれました。旧制熊谷中学校を卒業後、画家をめざして浦和（現・さいたま市）に居住し、独学で絵を学びながら、ついに官展デビューを果たし活躍します。

その後、30 代半ばで関西へ移住したことが剋太にとって大きな転機となりました。東大寺観音院の上司海雲との出会いと、そこに集った芸術家たちとの交流、そしてとりわけ画家・長谷川三郎との出会いは、剋太が抽象絵画を描き始めるきっかけとなる大きな影響を与えたと言われています。

須田剋太の生誕 120 年を記念して開催される本展では、大阪府 20 世紀美術コレクションの須田剋太作品と、個人蔵の貴重な作品を中心に、関西に移住して以降の須田剋太の絵画作品を抽象・具象あわせて約 100 点展示し、さまざまな技法と様式で描き続けた剋太の画業を一堂に展覧します。

いっときも止まることなく動き続ける生命の活動を、ひとつの静止した形にして取り出すこと——精神の物質化を剋太は「造型」と呼び、それを追求し続けました。剋太が生涯をかけて挑戦した「造型」のすがたを、作品と彼が残した数々の造型論を手がかりにしながらご覧ください。



01



02

みどころ

1. 抽象と具象を往来した巨匠・須田剋太の作品を 包括的に展観

官展に出展していた初期の具象絵画から、1950年代以降の抽象絵画、そして抽象と並行して描いた「街道をゆく」シリーズ挿絵のほか、人気を博してきた人物画や静物画など、多岐にわたるジャンルと技法で描き続けた剋太のさまざまな作品を本展でご覧いただけます。



04

2. 剋太独自の芸術論と子どもの美術教育論に フォーカス

本展では剋太の絵画作品にとどまらず、さまざまな媒体に寄稿・執筆された剋太の造型論（＝芸術論）に着目し、いくつかのキーワードを手掛かりにしながら、剋太がめざした芸術のあり方について考えます。

また、児童詩誌『きりん』との関わりや、幼稚園・小中学校等で造型教育に携わってきた経験から、剋太が子どもの美術教育に傾けた情熱と、そこから伺える剋太自身の制作哲学についてもご紹介します。



06

展覧会概要

会 期 | 2026年10月16日（金）－11月14日（土）※月曜休館

時 間 | 10:30～18:00 ※最終日のみ 13:00 まで

会 場 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] 4階 Room 1, 2, 3

入場料 | 無料

主 催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]

すだこくた 須田剋太 (1906～1990) プロフィール

1906（明治 39）年、埼玉県北足立郡吹上村（現・鴻巣市）に生まれる。本名・勝三郎。村立吹上尋常高等小学校卒業後、埼玉県立熊谷中学校に入学するも腎臓を患い 3 年間休学し、軽井沢で転地療養する。1927（昭和 2）年 3 月、埼玉県立熊谷中学校を卒業し東京美術学校を受験するが不合格。その後も毎年受験を続けるが 4 度続けて不合格となり、浦和（現・さいたま市）の別所沼のほとりに画室を建てて暮らす。1934（昭和 10）年頃、画家の寺内萬治郎に光風会への入会を勧められ、その後光風会や文展等に相次いで入選する。

1941（昭和 16）年、憧れていた関西に転居。1942（昭和 17）年、第 5 回新文展で《神将》が特選となる。東大寺観音院住職の上司海雲と出会い、観音院の土蔵の一部を改造してアトリエとして提供してもらう。1946（昭和 21）年、奈良に集う美術家や宗教家による「天平乃会」発足に参加。1947（昭和 22）年、《ピンクのターバン》が第 3 回日展で特選となる。翌年、美学者・井島勉の知友による「転石会」の会員となり、画家・長谷川三郎の知遇を得る。この出会いは剋太の造形と精神の双方に大きな影響を与え、抽象絵画へと向かうきっかけとなった。1949（昭和 24）年、国画会会員となり 1988 年に退会するまで毎年出品。翌年に個展を開催して以後、数多くの個展や国際展へ出品するとともに、『書的美』に発表された「原始と書」などの書画論も多く執筆する。1971（昭和 46）年、『週刊朝日』ではじまった司馬遼太郎の連載「街道をゆく」の挿絵を担当し、1990 年までの約 20 年間制作を続けた。晩年、埼玉県立近代美術館、飯田市立美術博物館、大阪府にそれぞれ作品を寄贈。大阪府は「街道をゆく」挿絵および抽象画を 2,228 点収蔵している。



関連イベント

◎中ハシクシゲ 講演会「剋太の「造形」をめぐって」

日時：2026 年 10 月 17 日（土）13:30～15:00

会場：4 階 Room 1（展覧会場内）

定員：30 名

参加費：無料



中ハシクシゲ講演会

剋太の大ファンを自認する美術作家の中ハシクシゲさんによる講演会。アーティストの目線から剋太の造形観に迫ります。

◎黒宮菜菜 ワークショップ「剋太にまなぶ^{えはだ}絵肌づくり」

日時：10 月 25 日（日）13:30～15:00

会場：2 階 Room 8

定員：15 名

参加費：2,000 円（税・材料費込）



黒宮菜菜ワークショップ

蜜蝋を使った油彩画や染料を使った和紙作品など、異なる素材で作品制作をされている画家の黒宮菜菜さんによるワークショップ。油彩とグワッシュで全く異なる表現に挑戦した須田剋太の絵画作品をじっくり観察してから、色や形だけでなく絵のさまざまな表面の質感＝「^{えはだ}絵肌」をつくることによる作品制作に挑戦します。

イベントへのお申し込み方法：

上に記載のフォーム（QR コード）よりお申し込みください（先着順）。

申し込み期間：9月1日（火）10:00～

※フォームからの申し込みが難しい方は電話にて受付します（電話：06-6441-8050）。

お問い合わせ先：

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

地下鉄(Osaka Metro)中央線・千日前線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m

TEL：06-6441-8050 FAX：06-6441-8151

mail：art@enokojima-art.jp

web | <https://www.enokojima-art.jp/>

※当センターは、2022年4月より enoco 文化創造プロジェクトとして吉本興業株式会社が代表団体となり、指定管理運営を行なっています。

広報用図版

広報用にお使いいただける図版を10点ご用意しました。画像の利用は展覧会の広報・紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（ウェブメディアを含む）の記事内でのご使用に限ります。お貸出しをご希望の方は、貸出条件をご確認のうえ、下記の必要事項とあわせて図版番号をメール（art@enokojima-art.jp）にてご連絡ください。

【必要事項】

御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

【貸出条件】

- ・ 作品画像の掲載にあたっては、写真に付記されているクレジットを正確に表記してください。
- ・ 画像のトリミング、文字載せ、色彩変更その他の改変はご遠慮ください。
- ・ 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。
- ・ 記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトの URL 等をお送りください。
- ・ 使用後はかならずデータを削除してください。



01 《ピンクのターバン》1947年 キャンバスに油彩



02 《四重奏》1951年 キャンバスに油彩



03 《作品》1961年 布（ドンゴロス）に油彩



04 《時間と空間の断絶》1961年 布（ドンゴロス）に油彩



05 《作品》1964年 布（ドンゴロス）に油彩



06 《ゴビ砂漠星空》1973年 紙にグワッシュ（「街道をゆく」モンゴル紀行より）



07 《作品》1980年 布に油彩



08 《どくだみ》1985年 キャンバスに油彩、コラージュ



09 《寒山拾得》1989年 紙にグワッシュ、コラージュ



10 《仏頭》制作年不詳 紙にグワッシュ